

## ◆ 薬価基準収載医薬品 (2024.5.22) - 報告品目・新キット製品 - 【暫定版】

【8成分17品目】

内用薬

収載日	薬効分類名	商品名	規格単位	薬価(円)	会社名	成分名	効能・効果	用法・用量	備考
5/22	VMAT2阻害剤 遅発性ジスキネ ジア治療剤	ジスバルカプセル 20mg	20mg 1カプセル	1537.50	製造販売元/ 田辺三菱製薬 販売元/ヤンセ ンファーマ	バルベナジントシ ル酸塩	本製品発売後公開予定とのこと。公開され次第掲載します。		既存の規格(40mg) に新規格(20mg)追 加。
5/22	SGLT2阻害剤	カナグルOD錠 100mg	100mg 1錠	158.50	製造販売元/ 田辺三菱製薬 プロモーション提 携/第一三共	カナグリフロジン水 和物		○2型糖尿病 ○2型糖尿病を合併する慢性腎臓病 ただし、末期腎不全又は透析施行中 の患者を除く	通常、成人にはカナグリフロジンとして100mgを1日1回朝食前又は朝食後に 経口投与する。

注射薬

収載日	薬効分類名	商品名	規格単位	薬価(円)	会社名	成分名	効能・効果	用法・用量	備考
5/22	気管支喘息治療剤 季節性アレルギー性鼻炎治療剤 慢性蕁麻疹治療剤 (ヒト化抗ヒトIgEモノクローナル抗体製剤)	ゾレア皮下注 75mgペン	75mg 0.5mL 1ｷｯｯ	11,927	製造販売(輸入)ノバルティスファーマ	オマリズマブ(遺伝子組換え)	○気管支喘息(既存治療によっても喘息症状をコントロールできない難治の患者に限る) ○季節性アレルギー性鼻炎(既存治療で効果不十分な重症又は最重症患者に限る)注) ○特発性の慢性蕁麻疹(既存治療で効果不十分な患者に限る)  注) 最適使用推進ガイドライン対象	〈気管支喘息〉 通常、オマリズマブ(遺伝子組換え)として1回75～600mgを2又は4週間毎に皮下に注射する。1回あたりの投与量並びに投与間隔は、初回投与前血清中総IgE濃度及び体重に基づき、下記の投与量換算表により設定する。 〈季節性アレルギー性鼻炎〉 通常、成人及び12歳以上の小児にはオマリズマブ(遺伝子組換え)として1回75～600mgを2又は4週間毎に皮下に注射する。1回あたりの投与量並びに投与間隔は、初回投与前血清中総IgE濃度及び体重に基づき、下記の投与量換算表により設定する。	既存の剤形(皮下注用150mg(バイアル)、皮下注75mgシリンジ、皮下注150mgシリンジ)に新剤形(ペン)追加。
		ゾレア皮下注 150mgペン	150mg 1mL 1ｷｯｯ	21,830					
		ゾレア皮下注 300mgペン	300mg 2mL 1ｷｯｯ	40,091					

  

投与量換算表 (1回投与量)

4週間毎投与

投与前の血清中総IgE濃度 (IU/mL)	体重 (kg)									
	≥20 ~25	>25 ~30	>30 ~40	>40 ~50	>50 ~60	>60 ~70	>70 ~80	>80 ~90	>90 ~125	>125 ~150
≥30~100	75 mg	75 mg	75 mg	150 mg	150 mg	150 mg	150 mg	150 mg	300 mg	300 mg
>100~200	150 mg	150 mg	150 mg	300 mg	450 mg	600 mg				
>200~300	150 mg	150 mg	225 mg	300 mg	300 mg	450 mg	450 mg	450 mg	600 mg	600 mg
>300~400	225 mg	225 mg	300 mg	450 mg	450 mg	450 mg	600 mg	600 mg		
>400~500	225 mg	300 mg	450 mg	450 mg	600 mg	600 mg				
>500~600	300 mg	300 mg	450 mg	600 mg	600 mg					
>600~700	300 mg		450 mg	600 mg						
>700~800										
>800~900										
>900~1,000										
>1,000~1,100										
>1,100~1,200										
>1,200~1,300										
>1,300~1,500										

2週間毎投与

投与前の血清中総IgE濃度 (IU/mL)	体重 (kg)									
	≥20 ~25	>25 ~30	>30 ~40	>40 ~50	>50 ~60	>60 ~70	>70 ~80	>80 ~90	>90 ~125	>125 ~150
≥30~100										
>100~200										
>200~300										375 mg
>300~400									450 mg	525 mg
>400~500							375 mg	375 mg	525 mg	600 mg
>500~600						375 mg	450 mg	450 mg	600 mg	
>600~700		225 mg			375 mg	450 mg	525 mg			
>700~800	225 mg	225 mg	300 mg	375 mg	450 mg	450 mg	525 mg	600 mg		
>800~900	225 mg	225 mg	300 mg	375 mg	450 mg	525 mg	600 mg			
>900~1,000	225 mg	300 mg	375 mg	450 mg	525 mg	600 mg				
>1,000~1,100	225 mg	300 mg	375 mg	450 mg	600 mg					
>1,100~1,200	300 mg	300 mg	450 mg	525 mg	600 mg					
>1,200~1,300	300 mg	375 mg	450 mg	525 mg						
>1,300~1,500	300 mg	375 mg	525 mg	600 mg						

投与量換算表では、本剤の臨床推奨用量である0.008mg/kg/[IU/mL]以上(2週間間隔皮下投与時)又は0.016mg/kg/[IU/mL]以上(4週間間隔皮下投与時)となるよう投与量が設定されている。

〈特発性の慢性蕁麻疹〉  
通常、成人及び12歳以上の小児にはオマリズマブ(遺伝子組換え)として1回300mgを4週間毎に皮下に注射する。

※各製品についての詳細な情報や正確な情報は、当該製品添付文書や官報等をご参照下さい。

収載日	薬効分類名	商品名	規格単位	薬価(円)	会社名	成分名	効能・効果	用法・用量	備考
5/22	遺伝子組換えヒト卵巣刺激ホルモン製剤	フォリスチム注 300IUカートリッジ	300国際 単位 0.36mL 1筒	11,410	製造販売元/ オルガノン	フォトリピン ベータ（遺伝子 組換え）	○生殖補助医療における調節卵巣刺激 ○視床下部－下垂体機能障害に伴う無排卵及び希発排卵における排卵誘発	〈生殖補助医療における調節卵巣刺激〉 フォトリピンベータ（遺伝子組換え）として通常1日150又は225国際単位を4日間皮下又は筋肉内投与する。その後は卵胞の発育程度を観察しながら用量を調整し（通常75～375国際単位を6～12日間）、卵胞が十分に発育するまで継続する。 〈視床下部－下垂体機能障害に伴う無排卵及び希発排卵における排卵誘発〉 フォトリピンベータ（遺伝子組換え）として通常1日50国際単位を7日間皮下又は筋肉内投与する。その後は卵胞の発育程度を観察しながら用量を調整し（卵巣の反応性が低い場合は、原則として、7日間ごとに25国際単位を増量）、卵胞の十分な発育が確認された後、ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン製剤等により排卵を誘起する。	MSDから移管、再申請されたものの承認。
		フォリスチム注 600IUカートリッジ	600国際 単位 0.72mL 1筒	21,001					
		フォリスチム注 900IUカートリッジ	900国際 単位 1.08mL 1筒	30,008					
5/22	筋弛緩回復剤	スガマデクス静注 液200mgシリンジ 「F」	200mg 2mL 1筒	2,955	製造販売元/ 富士製薬工業	スガマデクスナトリウム	ロクロニウム臭化物又はベクロニウム臭化物による筋弛緩状態からの回復	通常、成人にはスガマデクスとして、浅い筋弛緩状態（筋弛緩モニターにおいて四連（TOF）刺激による2回目の収縮反応（T <sub>2</sub> ）の再出現を確認した後）では1回2mg/kgを、深い筋弛緩状態（筋弛緩モニターにおいてポスト・テタニック・カウント（PTC）刺激による1～2回の単収縮反応（1-2PTC）の出現を確認した後）では1回4mg/kgを静脈内投与する。また、ロクロニウム臭化物の挿管用量投与直後に緊急に筋弛緩状態からの回復を必要とする場合、通常、成人にはスガマデクスとして、ロクロニウム臭化物投与3分後を目安に1回16mg/kgを静脈内投与する。	『プリディオン静注 200mg』のプレフィルドシリンジ製剤。
5/22	筋弛緩回復剤	スガマデクス静注 液200mgシリンジ 「ニプロ」	200mg 2mL 1筒	3,023	製造販売元/ ニプロ	スガマデクスナトリウム	ロクロニウム臭化物又はベクロニウム臭化物による筋弛緩状態からの回復	通常、成人にはスガマデクスとして、浅い筋弛緩状態（筋弛緩モニターにおいて四連（TOF）刺激による2回目の収縮反応（T <sub>2</sub> ）の再出現を確認した後）では1回2mg/kgを、深い筋弛緩状態（筋弛緩モニターにおいてポスト・テタニック・カウント（PTC）刺激による1～2回の単収縮反応（1-2PTC）の出現を確認した後）では1回4mg/kgを静脈内投与する。また、ロクロニウム臭化物の挿管用量投与直後に緊急に筋弛緩状態からの回復を必要とする場合、通常、成人にはスガマデクスとして、ロクロニウム臭化物投与3分後を目安に1回16mg/kgを静脈内投与する。	『プリディオン静注 200mg』のプレフィルドシリンジ製剤。
5/22	筋弛緩回復剤	スガマデクス静注 液200mgシリンジ 「マルイシ」	200mg 2mL 1筒	3,003	製造販売元/ 丸石製薬	スガマデクスナトリウム	ロクロニウム臭化物又はベクロニウム臭化物による筋弛緩状態からの回復	通常、成人にはスガマデクスとして、浅い筋弛緩状態（筋弛緩モニターにおいて四連（TOF）刺激による2回目の収縮反応（T <sub>2</sub> ）の再出現を確認した後）では1回2mg/kgを、深い筋弛緩状態（筋弛緩モニターにおいてポスト・テタニック・カウント（PTC）刺激による1～2回の単収縮反応（1-2PTC）の出現を確認した後）では1回4mg/kgを静脈内投与する。また、ロクロニウム臭化物の挿管用量投与直後に緊急に筋弛緩状態からの回復を必要とする場合、通常、成人にはスガマデクスとして、ロクロニウム臭化物投与3分後を目安に1回16mg/kgを静脈内投与する。	『プリディオン静注 200mg』のプレフィルドシリンジ製剤。
5/22	ヒト型抗ヒトIL-12/23p40モノクローナル抗体製剤	ウステキヌマブBS 皮下注45mgシリンジ「F」	45mg 0.5mL 1筒	147,524	製造販売元（輸入）/ 富士製薬工業	ウステキヌマブ（遺伝子組換え） 【ウステキヌマブ後続1】	○既存治療で効果不十分な下記疾患 尋常性乾癬、乾癬性関節炎	通常、成人にはウステキヌマブ（遺伝子組換え） 【ウステキヌマブ後続1】として1回45mgを皮下投与する。初回投与及びその4週後に投与し、以降12週間隔で投与する。 ただし、効果不十分な場合には1回90mgを投与することができる。	『ステララ皮下注 45mgシリンジ』のバイオシミラー。

収載日	薬効分類名	商品名	規格単位	薬価(円)	会社名	成分名	効能・効果	用法・用量	備考
5/22	抗リウマチ剤	メトジェクト皮下注 7.5mgペン 0.15mL	7.5mg 0.15mL 1ｷｯﾄ	1,938	製造販売元/ 日本メダック 販売元/ エーザイ	メトレキサート	関節リウマチ	通常、成人にはメトレキサートとして7.5mgを週に1回皮下注射する。なお、患者の状態、忍容性等に応じて適宜増量できるが、15mgを超えないこと。	既存の注射薬の剤形(皮下注(シリンジ))に新剤形(シリンジを内蔵したペン型自動注入器注射剤)追加。
		メトジェクト皮下注 10mgペン 0.20mL	10mg 0.2mL 1ｷｯﾄ	2,310					
		メトジェクト皮下注 12.5mgペン 0.25mL	12.5mg 0.25mL 1ｷｯﾄ	2,652					
		メトジェクト皮下注 15mgペン 0.30mL	15mg 0.3mL 1ｷｯﾄ	2,972					

## 外用薬

収載日	薬効分類名	商品名	規格単位	薬価(円)	会社名	成分名	効能・効果	用法・用量	備考
5/22	持続性・経眼 アレルギー性結 膜炎治療剤	アレジオン眼 クリーム0.5%	0.5%1g	1,686.70	製造販売元/ 参天製薬 提携/日本ペ リンガーイン ゲルハイム	エピナスチン塩 酸塩	アレルギー性結 膜炎	通常、適量を1日1回上下眼瞼に塗布する。	既存の外用薬の剤形(点眼液0.05%、LX点眼液0.1%)に新剤形(眼瞼クリーム製剤)追加。